

(5) 指導者自身の運動・スポーツ活動歴

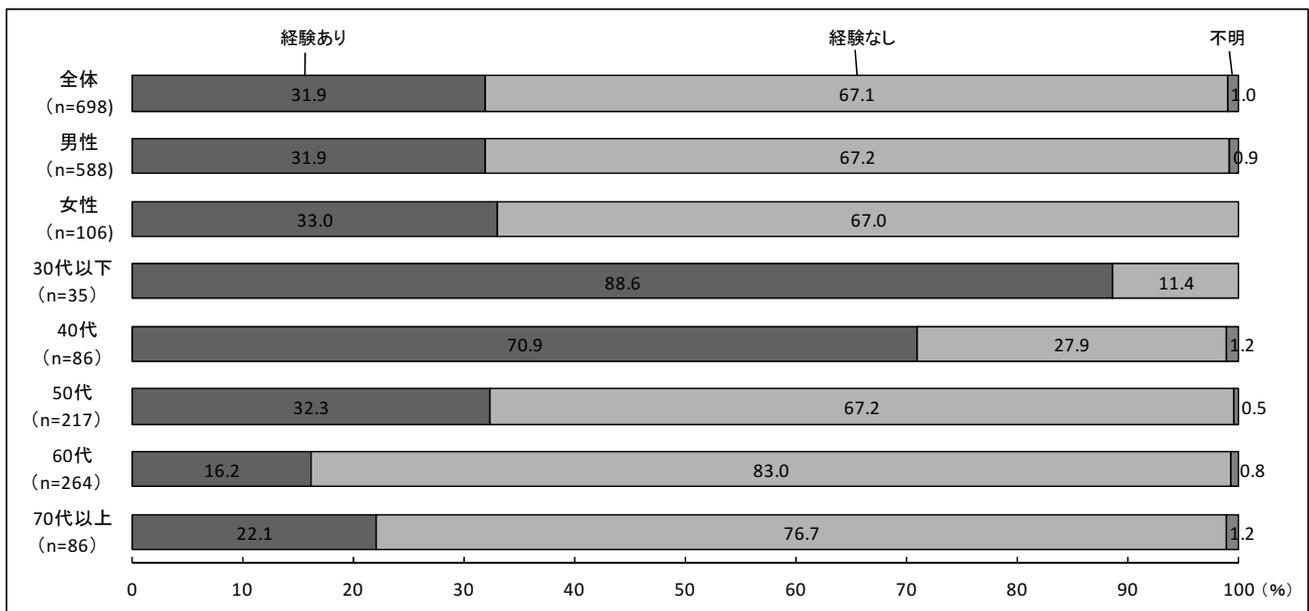
5-1 幼少年期における運動・スポーツ組織への加入歴

本調査では、対象者自身の「幼少年期（年少～小学校 6 年生）における運動・スポーツ組織への加入歴」をたずねた。このような運動・スポーツ組織への加入歴、すなわち運動・スポーツ活動歴は、成人になってからの運動・スポーツ実施を規定する重要な要因であると考えられ、さまざまな角度からの分析が期待される。

全体の結果をみると、幼少年期において運動・スポーツ組織への加入経験のない者が 67.1%と 7 割近くを占め、加入経験のある者は 31.9%と 3 割程度であった(図 5-1)。性別にみても、男性・女性ともに加入経験のある者は 3 割程度であり、性別によって運動・スポーツ組織への加入経験に大きな違いはみられなかった。

しかし、年代別にみると、運動・スポーツ組織への加入経験は年代による差が大きい。加入経験のある「30 代以下」は 88.6%と 9 割近くを占めているのに対し、「40 代」70.9%、「50 代」32.3%、「60 代」16.2%、「70 代以上」22.1%と年代が高くなるほど加入の経験は低くなることがみてとれる。笹川スポーツ財団「スポーツ活動に関する全国調査」(2010)によると、青少年期におけるスポーツクラブや同好会への加入率は、年代が高くなるほど減少するという同様の結果が示されている。子どもの運動・スポーツ組織の中心である「日本スポーツ少年団」は 1962 年(昭和 37 年)に創設されており、50 代以上の多くの指導者は幼少年期において、運動・スポーツ組織以外での運動・スポーツ活動の経験が多いことが考えられる。

【図 5-1】指導者自身の幼少年期における運動・スポーツ組織への加入経験の有無
(全体・性別・年代別)



5-2 幼少年期における運動・スポーツ実施状況

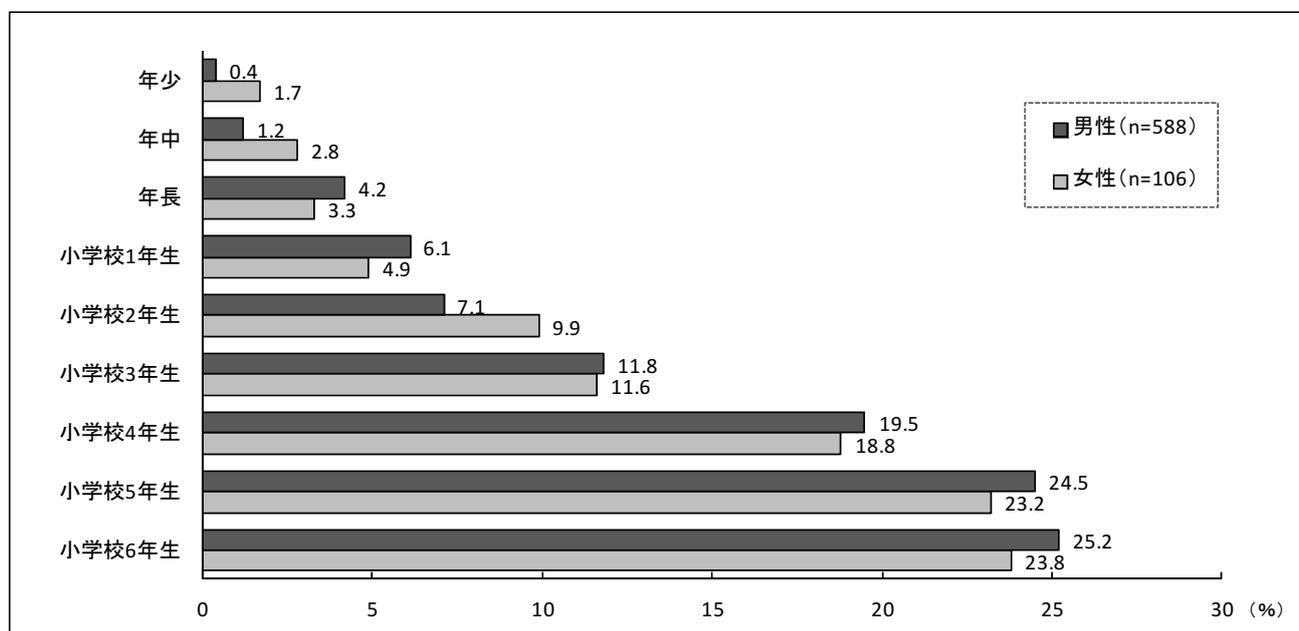
幼少年期（年少～小学校6年生）において運動・スポーツ組織へ加入した経験があると回答した者が、どの年代において活動していたのかを図5-2に示した。

性別にみると、年少から小学校6年生にかけて年代が上がるにつれ、男女ともに運動・スポーツ組織への加入率が高くなっており、特に小学校3年生から4年生にかけての実施率が高くなっていることがみてとれる。

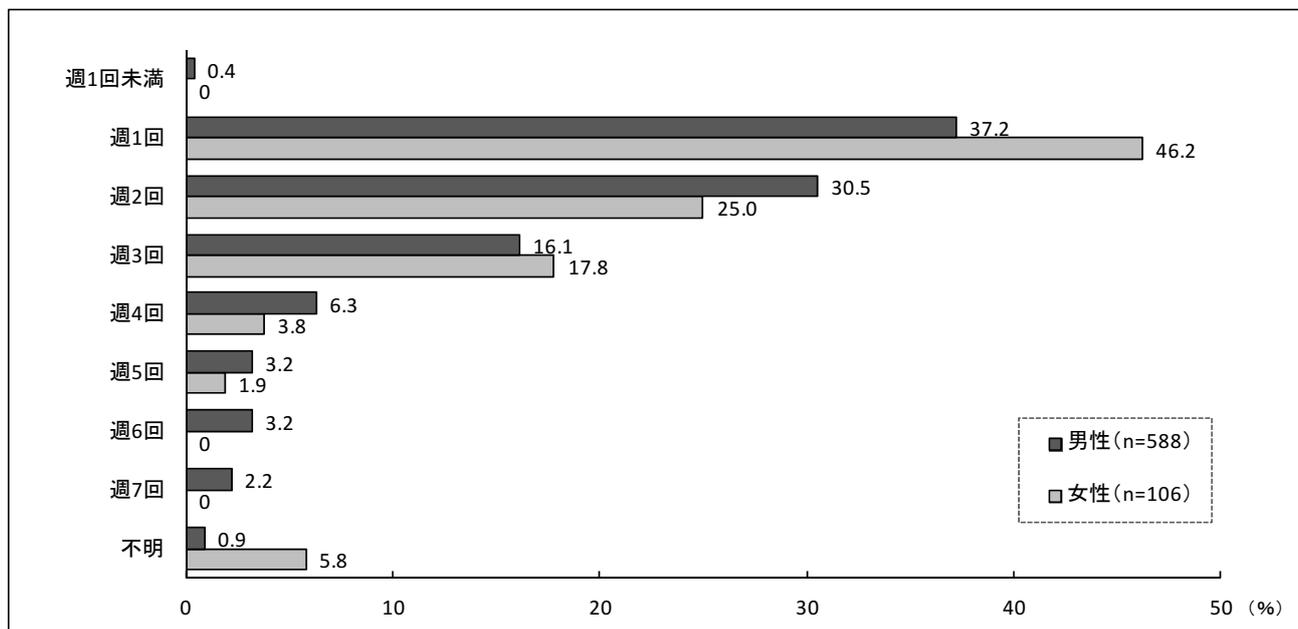
幼少年期における運動・スポーツの実施頻度は、「週1回」が男性37.2%、女性46.2%で最も多く、次いで「週2回」が男性30.5%、女性25.0%、「週3回」が男性16.1%、女性17.8%と続く（図5-3）。男女ともに「週1～3回」が8割から9割を占め、ほとんどの指導者が週1～3回程度の運動・スポーツ活動を行っていたことが示された。

運動・スポーツ実施時間は、「60分以上120分未満」が男性57.8%、女性55.8%で最も多く、半数以上の指導者が1回あたり60分以上120分未満の運動・スポーツ活動を行っていた。次いで「60分未満」が男性16.6%、女性26.9%、「120分以上180分未満」が男性17.9%、女性17.3%と続く（図5-4）。また、「180分以上」と回答した者は男性5.5%存在したが、女性にはみられなかった。

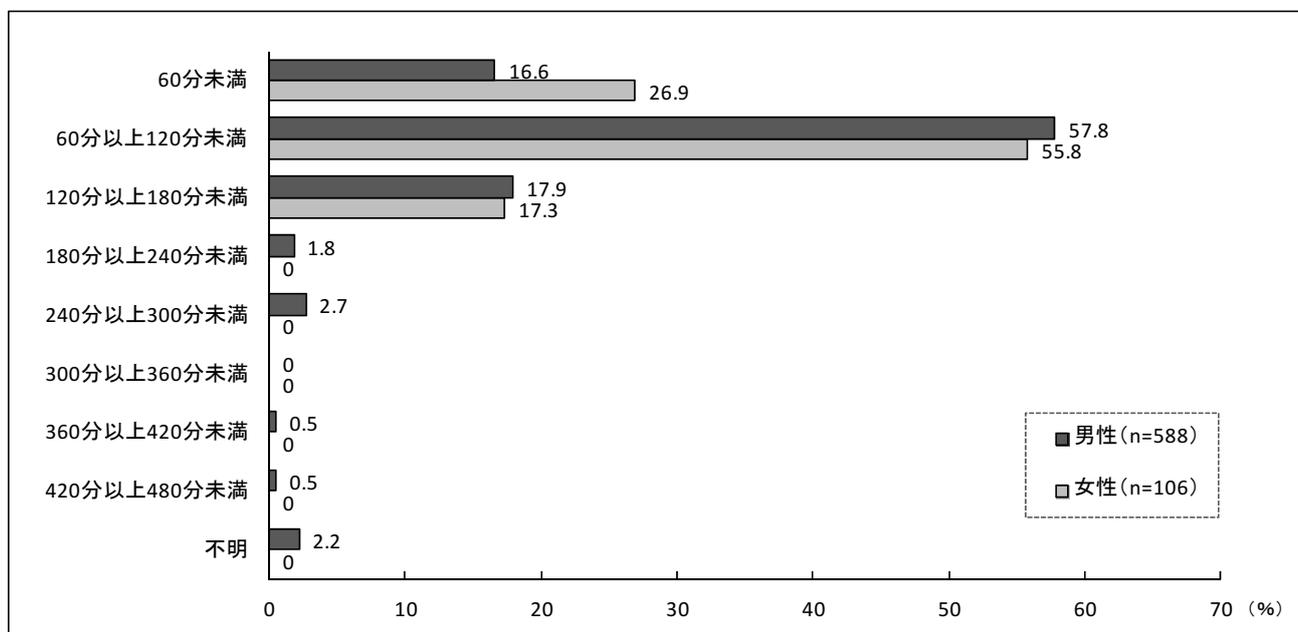
【図5-2】指導者自身の幼少年期における運動・スポーツ組織への加入時期（性別）



【図 5-3】指導者自身の幼少年期における運動・スポーツ実施頻度（性別）



【図 5-4】指導者自身の幼少年期における運動・スポーツ実施時間（性別）



5-3 種目別にみる運動・スポーツ実施状況

指導者自身が幼少年期（年少～小学校 6 年生）に行っていた運動・スポーツの種目を表 5-1 に示した。「軟式野球」が 22.4%と最も多く、次いで「剣道」が 21.5%、「ソフトボール」11.7%、「サッカー」9.4%、「水泳」9.0%、「柔道」7.2%、「空手道」5.8%、「複合種目」「バレーボール」5.4%、「卓球」4.0%と続く。

性別にみると、男性の実施率 10%を超える運動・スポーツ種目は「軟式野球」「剣道」「ソフトボール」「サッカー」である。一方、女性の実施率 10%を超える運動・スポーツ種目は「バレーボール」「水泳」「剣道」「複合種目」「体操」であり、男女共通して実施率が 10%を超える運動・スポーツ種目はみられなかった。また、性別で実施している運動・スポーツ種目の数に着目すると、男性が 25 種目と全体の 9 割近くを占めているのに対し、女性は 17 種目と 6 割程度にとどまっており、実施する運動・スポーツ種目の選択肢が狭いことが推測される。

【表 5-1】指導者自身が幼少年期に行っていた運動・スポーツ種目（全体・性別）

全体 (n=223)			男性 (n=188)			女性 (n=35)		
順位	実施種目	%	順位	実施種目	%	順位	実施種目	%
1	軟式野球	22.4	1	軟式野球	26.6	1	バレーボール	22.9
2	剣道	21.5	2	剣道	22.3		水泳	22.9
3	ソフトボール	11.7	3	ソフトボール	12.8	3	剣道	17.1
4	サッカー	9.4	4	サッカー	11.2	4	複合種目	14.3
5	水泳	9.0	5	柔道	8.0	5	体操	11.4
6	柔道	7.2	6	水泳	6.4	6	空手道	8.6
7	空手道	5.8	7	空手道	5.3		卓球	8.6
8	複合種目	5.4	8	複合種目	3.7	8	バスケットボール	5.7
	バレーボール	5.4	9	バスケットボール	3.2		ソフトボール	5.7
10	卓球	4.0		卓球	3.2		陸上競技	5.7
11	バスケットボール	3.6	12	陸上競技	3.2		アイススケート	5.7
	陸上競技	3.6		バレーボール	2.1	柔道	2.9	
13	体操	2.7	12	スキー	2.1	スキー	2.9	
14	スキー	2.2		ソフトテニス	1.1	硬式テニス	2.9	
15	ソフトテニス	0.9	14	体操	1.1	12	バドミントン	2.9
	硬式テニス	0.9		相撲	1.1		フィギュアスケート	2.9
	バドミントン	0.9	17	少林寺拳法	0.5		合気道	2.9
	相撲	0.9		硬式テニス	0.5			
	アイススケート	0.9		バドミントン	0.5			
少林寺拳法	0.4	アウトドアスポーツ		0.5				
アウトドアスポーツ	0.4	ラグビー		0.5				
20	ラグビー	0.4	17	ジュニアリーダー会	0.5			
	ジュニアリーダー会	0.4		ボウリング	0.5			
	ボウリング	0.4		硬式野球	0.5			
	フィギュアスケート	0.4		ハンドボール	0.5			
	合気道	0.4						
	硬式野球	0.4						
	ハンドボール	0.4						